



HOOH

2020年(令和2年)11月27日
学校法人希望が丘学園
鳳凰高等学校
メディカルシステム科
総合福祉科
看護学科基礎課程・専門課程
普通科文理コース
普通科特進コースⅠ類・Ⅱ類

鳳凰スタンプ：植山 愛莉(卒業生)作
題字：書道部

発行：鳳凰高等学校 鹿児島県南さつま市加世田唐仁原1202番地
TEL：0993-53-3633 FAX：0993-52-7974

鳳凰の花、咲きこぼれる



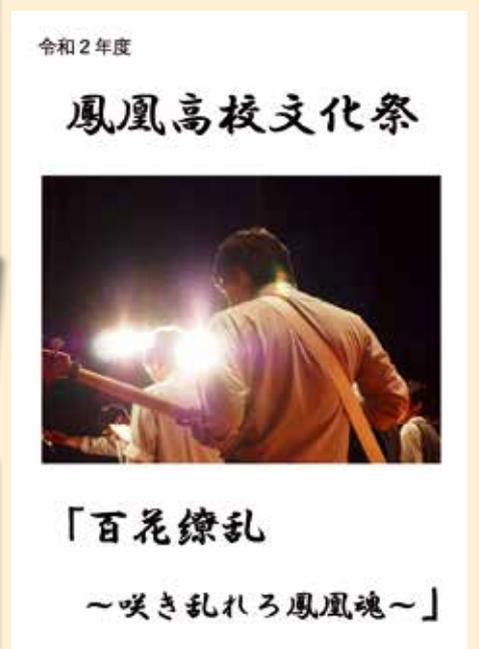
HOOH花火、夜空を彩る

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、行事も多く中止になり、寮生が楽しみにしている夏休みの帰省もできなくなるなど、辛い思いをした生徒が多くいる。そんな大変な状況の中でも、踏ん張って、前に突き進んでほしいという思いを込めて、花火を打ち上げた。この花火に歓声を上げる生徒、友人と楽しさを共有する生徒、辛い思いを乗り越え溢れる思いから涙する生徒。様々な思いを乗せた花火が鳳凰高校の夜空を彩った。



2020文化祭『百花繚乱～咲き乱れろ 鳳凰魂～』

10月31日、文化祭が開催された。例年2日間で行われる文化祭だが、今年度は展示発表とステージ発表に絞り、1日のみの開催となった。ステージ発表は、クラスごとに時間を区切り、体育館で鑑賞するクラス、教室でリモートにて視聴するクラスに分かれて、万全な対策をとって実施された。例年と違う形の文化祭だったが、鳳凰高校に生徒たちの笑顔の花が咲きこぼれた。



CLOSE-UP

～ 活躍する鳳凰生の思いに迫る ～

部活動で活躍する鳳凰生

新型コロナウイルスの影響で、部活動も思うように活動ができない中、男女テニス部、女子サッカー部、駅伝部、陸上部が九州大会への出場を決めた。コロナに負けず、それぞれの目標に向かって強く前進している部員たち。今回は、その中でも今後も全国レベルの活躍が期待される鳳凰生の姿に迫る。



いとう りん
伊藤 凜さん (女子テニス部主将)

【経歴】刈谷市立朝日中学校出身。普通科特進コースⅡ類に在籍し、女子テニス部の主将を務める。九州大会・全国大会には2年生から出場し、チームの中心的存在となった。9月19日に放送された「KTSの日」で特集されるなど、今後の活躍が期待されている選手の1人である。



全国の舞台を経験した伊藤さんに聞きました!

Q1 伊藤さんの強さはどこから生まれたのですか?

初めての寮生活で不安や悩みもありましたが、遠くから応援してくれている親にはなかなか相談できずにいました。しかし部員や友人が悩みを聞いてくれ、自分で解決策を見つけていけたことが強さにつながったと思います。チームや友人の支えがなければ今の自分はなかったと思います。

Q2 後輩の皆さんに伝えたいことは?

今年新型コロナウイルス感染症の影響で大会がなくなったように、いつ何が起るかわかりません。部活動に励んでいる皆さんも、今、自分の好きな競技ができていることに感謝して、この環境を当たり前だと思わずにこれからも日々練習に励んでください。そして後悔のない高校3年間を過ごしてほしいです。

Q3 今後の目標を教えてください。

進学して、テニスと勉強の両立をしていきたいと考えています。日々多くのことを吸収し、早くチームの戦力になれるように練習に励みます。

生徒会執行役員の紹介

9月26日、任期満了に伴う生徒会執行役員改選が行われた。例年であれば各立候補者による立会演説が体育館で行われるが、今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、事前に収録した演説を各教室で放映した。

投票の結果、以下の生徒が生徒会執行委員として選ばれた。

生徒会長



西岡 ひよな
看護学科基礎課程

副会長



亀之園 京士郎
看護学科基礎課程

副会長



下山 未裕
普通科特進Ⅰ類

会計



堀川 裕哉
総合福祉科

会計



有馬 成美
普通科文理

書記



田中 伶空
普通科文理

書記



折戸 妃奈
メディカルシステム科

文化部 部長



江上 マリカ
看護学科基礎課程

文化部 副部長



金久 碧希
看護学科基礎課程

文化部 補佐



本村 胡桃
看護学科基礎課程

風紀部 部長



高山 祐一郎
普通科文理

風紀部 副部長



小林 亜治
看護学科基礎課程

体育部 部長



宮路 華叶
看護学科基礎課程

体育部 副部長



宮田 梨菜
看護学科基礎課程

体育部 補佐



新西 美羽
普通科文理

生徒会長 西岡さんから一言!

10月より生徒会執行役員の活動が始まりました。生徒の皆さんが毎日楽しく過ごせるような、よりよい学校づくりのために尽力したいと思っています。また、今年は新型コロナウイルスの影響により、昨年までと比べて体育祭や文化祭など、学校行事が中止になったり規模が縮小したりしていますが、このような状況でも学校行事を最大限楽しめるよう、皆さんの意見をたくさん取り入れたいと考えています。1年間よろしくお願いいたします!

医療・介護現場のプロを目指して奮闘中!

～ 総合福祉科・看護学科 実習報告 ～

総合福祉科2年・3年 校内演習

介護ロボット体験

「社会福祉法人 野の花会」の方々に来校して頂き、講演及び介護ロボット体験を行った。講演では、どのような介護ロボットを導入し利用しているかお話しいただいた。援助の方法によって様々な介護ロボットが作られており、介護福祉士の負担軽減につながっているということを知り、生徒たちは最新の機器に驚きと感動を覚えていた。



「腰に装着する介護支援用ロボットや福祉用具の正しい使い方を学ぶことができました。スライディングシートやコミュニケーションロボットなど楽しく体験することができて良かったです。」

(総合福祉科2年2組 小川 友里奈)



▲介護ロボットを体験する様子

榎山学園講演会



「障害者支援施設 榎山学園」の方々による講演会を開催した。はじめ、職員の高島様が施設での活動について、また介護福祉士としての業務について、写真を見せながら説明して下さった。副施設長の小屋敷様からは榎山学園の紹介や介護福祉士の力が必要とされている現状などをお話しいただいた。「感謝の気持ちを『ありがとう』と言葉に表すこと。ありがとうの反対語は『当たり前』である。」などの言葉に、生徒たちは真剣に耳を傾けていた。

「コロナ禍で実習に行けない中、施設の貴重なお話が聞けて勉強になりました。写真に写る利用者の方々の笑顔が印象的でした。今回の講話を今後に生かして頑張りたいです。」 (総合福祉科2年2組 上薄 清楓)

看護学科基礎課程3年 校内演習



▲シミュレーション人体モデルを設置した実習室



▲オリエンテーションと校内演習の様子



▲認知症サポーター養成講座の様子

看護師の道へ一歩近づくための臨地実習。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により校内演習という形で実施された。

専門課程への進級が迫る3年生の実習では、臨場感のある実習を目指し、シミュレーション人体モデルを活用した看護実践や、教員が患者役をすることで「対話」を通じて行われる看護実践が展開された。実習当初は、不安や緊張も強く、うまくいかないコミュニケーションや看護実践に対して「患者さんのことを第一に考えられていない」と悔し泣きする生徒もいた。それでも日々前向きに、病棟スタッフ担当の看護教員や、担任・副担任の指導・助言を自分のものにしようと努力し、最終的には

できることが増え、患者との関係も築けていった生徒たちの姿が印象的だった。最終反省会では「心温まる指導をありがとうございました」と感謝を述べる生徒もおり、厳しい中にも、優しさや愛情を感じられる実り多い実習となった。



B館全トイレがリニューアル!

8月から約2ヶ月間に及ぶ改修工事が行われていたB館トイレ。このたび1階から4階までの計7ヶ所全ての改修工事が終了した。生徒たちからは「きれい!快適です」と感嘆の声が上がった。今後引き続き本館トイレの改修工事が実施される。



体験入学・オープンスクール

夏から秋にかけて、中学生対象の体験入学・部活動体験及びオープンスクールが実施された。各学科とも生徒を中心に工夫を凝らした体験内容を準備し、中学生を迎えた。笑顔で活動に取り組む中学生を見て、「楽しんでくれてよかった。学科の魅力を伝えられたと思う」と生徒たちも嬉しそうだった。また今年度は、新型コロナウイルスの影響で参加できなかった方のために、オンライン説明会、出張体験入学、学校自由見学も実施し、たくさんの中학생や保護者の方に参加いただいた。



合同定期演奏会

9月20日、武道館多目的ホールにて吹奏楽部・合唱部合同の定期演奏会が開催された。新型コロナウイルスの影響で、一般の方々のご招待はできず、保護者など学校関係者のみ来場可能という、例年とは違う形での実施となった。魅力あふれる演奏、明るい歌声、そして迫力ある両部のコラボ発表に、観客も終始笑顔で、楽しさあふれる演奏会になった。



第31回伊藤園「お〜いお茶新俳句大賞」

佳作特別賞入賞!!

「お〜いお茶新俳句大賞」の佳作特別賞に、沖田真奈さん（看護学科基礎課程3年6組）の「一輪の蕾が咲いたこんにちは」が入賞した。全国から集まった190万句を超える応募作品の中からの受賞。沖田さんは「自分で考えた春の朝の情景を、どういう言葉を使ったら伝わるのか考えて作りました」と笑顔で語った。沖田さんの作品は、作品集とペットボトルラベルに掲載されることになる。



美味しい「鹿児島産黒豚」をいただきました

7月、株式会社コワダヤさんが高校としらうめ幼稚園にたくさんの鹿児島産黒豚を提供してくださった。「コロナ禍で気持ちが沈んでいる地元を明るく盛り上げたい」というお気持ちからプレゼントされた黒豚は、高校では寮生の夕食に「黒豚の生姜焼き」として振る舞われた。「コロナの影響で帰省がなくなり落ち込んでいた中、美味しいお肉を食べることができてとても元気が出ました」と生徒たちは嬉しそうに味わっていた。

